



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 天界 1942, 22(255)

ISSUE DATE:

1942-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168436>

RIGHT:

# 天 界

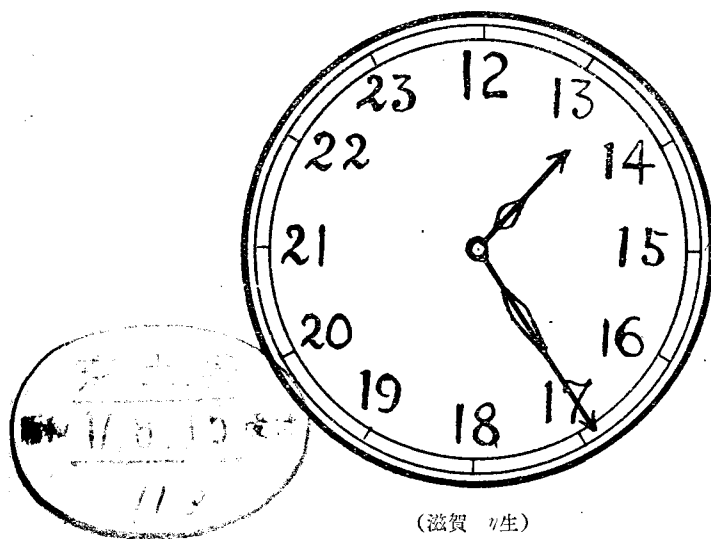
(第 22 卷)

第 2 5 5 號

昭和17年第 9 號

24時制の時計の文字盤

應募案 No.1



(滋賀 生)

本部: 田上天文臺

東 亞 天 文 協 會

事務局: 滋賀縣 堅 田

1942年

## 九月の天象

(時刻は日本標準時)

### Heavens of September.

もはや今年も秋季に入つて、太陽は獅子座から乙女座へ南下しつつある。九月8日には大陸では“白露”の節であり、24日には秋分となつて、太陽は赤道を越える。南洋からやつて来る颱風は、夏の頃から漸次そのたちが悪くなつて、九月からは眞正面に我が本土を襲ひ、猛威をたくましくする時期であるから、警戒を要する。敢へて“二百十日”だけを無事に過ぎたと言つて、安心してはゐられない。

太陽の黒點は、愈々極小期に近づき、毎日無黒點の日が続く。しかし、これと同時に、むしろ非常に注意深く太陽面を見守らなければならないことは、新群のはしりが何時現はれるか、知れないといふことである。平均して言へば、太陽面の高緯度で新群が出現するのは、來年か、或は更來年かも知れない。しかし、不規則な太陽活動のことであるから、案外早く現はれるかも知れない!! 最初の新群発見者よ! すぐ本部へ電報して貰ひたい。

月は3日から下弦、11日が新月で、この日が舊八月の朔である。それから、18日が上弦となり、24日が満月となる。“満月”が必ずしも十五夜に非ず、今年の“仲秋の名月”は満月の翌日で、25日に當る。

水星は八月以來、宵の西空にあつて、7日に遠日點を通過し、月半ばの16日に東方へ極大離角(26°40′)となるのだが、なにぶんにも黃道と地平線との傾きが小さいので、日本内地から見ると、非常に困難である。皇軍進出の南方地區ならば大に良い。殊にジャバ・スマトラあたりならば、こんな好都合の水星觀測期は、又とあるまい。

金星は、曉の星であるが、益々太陽に近づくから、殆んど觀望は駄目であらう。

火星も、殆んど太陽と會合中であつて、地球からの距離は2.6單位以上。

木星は、朝早く東の天空に漸次高く昇つて來て、觀測時間も長くなつて來た。衛星の隱顯も頻繁に現はれ、正に殘暑を消し飛ばす好材料である。

土星は木星よりも更に良い位置にある。天王星を東へ追ひ越したばかり、牛座に高く輝やいて、輪の幅も 20" に近い。望遠鏡を有つ人の好期である。

天王星は、やはり土星と打ち連れて、夜半後の東天の好位置にある。

海王星は太陽と會合中。

黃道光は、朝早く東天のものが良く見える時節である。

## 頒布印刷物目録

題 目	執筆 者	定 價	送 料
○變 光 星 報 告 (14年度前半)	倉 敷 天 文 臺	10	4
○       "       (14年度後半)	"	10	4
○       "       (15年度前半)	"	10	4
○流 星 觀 測 入 門	小 槇 孝 二 郎	20	4
○流星群の速度決定の一方法	"	10	4
○黃道光の光度について	下 保 茂	10	4
○標 準 天 文 學	山 本 一 清	2.00	20
○ガ リ レ オ 傳	"	30	4
○印 度 洋 航 海 日 誌	"	20	4
○學 術 と 宗 教	"	40	4
○標 準 時 に 就 いて	"	10	4
○臺 灣 日 蝕 紀 行	井 本 進	15	4
○遊 星 惑 星 源 流 考	"	15	4
○對日照の變化に就いて	醍 醐 正	10	4
○1939年度火星協同觀測結果報告	伊 達 英 太 郎	20	4
○1941年度對衝に於ける火星協同觀測結果報告	"	30	4
○計算圖表に依る變星光度計算	内 藤 一 男	15	4
○星       か       げ (歌集)	錦 織 久 良 子 編	1.20	12
○滿洲の氣候と天上の花	水 野 千 里	30	4
○彗 星 總 目 録 (英文)	山 本 進	非 賣 品	
○1921年のボンキネケ 彗星に附隨せる流星觀測 (英文)	山 本, 中 村	20	4
○反射望遠鏡の智識 (天界別刷の一部) (内容) 整形, 製作準備, 擋り佛業, 鏡面研磨, 鏡の材料, 鏡製作について	中 村 要	50	8
○携帶用寫真眼鏡兩用反射鏡に關する試作概況	藤 波 重 次	20	4
○黑點の相對數式觀測法に就て	大 石 辰 次	10	4
○昭和16年度太陽課綜合報告	"	10	4
○シンクロノームの新天文時計	高 城 武 夫	20	4
○緯 度 觀 測 事 業	木 村 榮	10	4
○太 陽 面 經 緯 度 圖 (8枚一組)	山 本 一 清 監 修	50	4
○簡 易 星 圖	"	20	4
○草 場 恒 星 圖 (解説書付)	"	50	4

天 文 寫 眞 第 1 輯 (既刊14種)   本           會 (一枚) 1.40   不要

天 文 寫 眞 第 2 輯 (" 3種)       "           "   1.00   不要

天 文 寫 眞 第 3 輯 (" 2種)       "           "   6.00   不要

新撰天文エハガキ (一組8枚) {コロタイプ版       "       30       4  
                                  {プロマイド版       "       1.50     4

1941年皆既日蝕山本博士放送録音(一枚2面)       "           2.00   30

## 會員に関する報告

多 鈴	〔入 會 者〕 田 幸 男(東 京) 木 増 雄(川 崎)	古 市 茂(津 ) 田 中 總 雄(京 都) 今 原 堅 次(京 都)	前 田 祐 志(京 都) 中 原 千 秋(長 崎)
多	〔觀 測 部 入 部〕 田 幸 男(東 京)	小 林 義 惠(東 京)	中 原 千 秋(長 崎)
(逝 去) 山田榮三郎(東京, 昭和13年入會)			

(注 意): 御移轉の節には直ちに(前住所をも並記して)御通知下さい。  
觀測部(へ入部)の方は其旨附記して下さい。

## 昭和17年分會費・部費領收者芳名

吉 田 藤 上 江 大	會 源 治 郎 兄 男 三	(4 圓 兵 庫 東 京 東 京 東 京)	河 原 村 川	塚 六 一	福 榮 一	司 一 郎 夫	(北 大 京 歌 山)	京 阪 都 山)	大 金 河 小	島 光 村 山	幹 國 市 丑	造 勢 郎 松	(岡 岡 靜 新 潟)	山 山 岡 濁)
多 田 幸 男	費 幸 男	(一 部 完 納 東 京)	古 田	市 中	總 馨 謙	茂 雄 兒 男	(津 京 東 京 東 京)	前 小 古	田 林 川	祐 義 一	志 惠 夫	(京 東 和 歌 山)	都 京 山)	
小 山 同	部 費 丑	(二 圓 40 錢 新 潟)	齋 藤 大 多	田	幸	男	(東 京)	小 林	林	義 惠	(東 京)			
同 (一部完納)														

(順序不同) (領收通知に代ふ) (1942—6—30締切)

## 本 號 要 目

表 紙 繪: 24時制の時計の文字盤 No.1	
口繪寫眞: 1941年十月の火星スケチ (3)	
巻頭隨筆: 陸 の 緑 閃 光	山 本 一 清 275
1941年度對衝に於ける火星協同觀測結果報告 (3)	伊 達 英 太 郎 278
土 星 の 環	R.G.エイトケン 282
天 界 正 誤 表	284
中等學校に於ける天文教材論 (3)	山 本 一 清 285
來年(2603年)二月5日の日蝕皆既に就いて	田 中 朝 夫 289
學者が忘れてゐる星座	山 本 一 清 291
コペルニク全集の刊行計畫など	295
昭和16年度の太陽黑點相對數について	平 井 利 朗 296
新刊紹介: 田中宗愛「星と人生」	299
會 告	300
天界新知識 (4件)	301
標準天文用語表 (9)	304
觀測部月報: 遊星面・太陽・流星	306
た よ り	309
たてぐみ: 子供の疑問と解き明かし	(375)
1941年九月の天象	表紙 第2頁

## 天文寫眞既刊目錄

皆、非常に珍しいもので、始めて頒布されるもの、又は日本では殆んど手に入らぬものばかりです。すべて説明文つきです。

### 天文寫眞（第1輯）一枚に付き金1圓40錢（送料共）

1. 土 星 リク天文臺にて觀察されたもの。今回の接近の記念として絶好品。
2. ベルリの皆既日蝕 1937年六月8日、花山の觀測隊が撮影したもの。
3. ファインストラ彗星 1937年七月、賑かなペルセウス座を北進する景觀。
4. 盛装のアインスタイン博士 相對原理の創設者の見事な肖像。
5. 小マゼラン雲 近年の宇宙研究上に有名な天體で、日本では見えない珍景。
6. オリオン大星雲 白く輝く蝶ネクタイ型の大ガス星雲。一幅の宇宙畫。
7. ヘルクス球狀星團 望遠鏡で見得る最大なる宇宙の一つ。
8. 黒點されたる太陽 1940年八月18日會員伊達英太郎氏撮影。
9. 大流星の寫眞 アンドロメダ大星雲と突如として闖入せる大流星。
10. ハリ大彗星 1910年接近の時の美しい寫眞。
11. 南十字星あたり 古來、南海を渡る人々に詠はれた南十字を中心として。
12. 北極迴轉の姿 北極をめぐる星々の宇宙美と偶然飛んだ一流星。
13. ベルリン天文臺の大望遠鏡 口径65センチの大屈折望遠鏡。
14. ベルリン天文臺の大反射鏡 口径122センチの大反射望遠鏡。
15. ブルツクス彗星 1911年ヤークス天文臺でバーナードが撮つたもの。
16. 活躍時代の(故)中村要氏 我國天文界の巨人の姿

### 天文寫眞（第2輯）一枚に付き金1圓也（送料共）

1. 火星の寫眞(3種1組) 1939年の夏、スライファが撮つた貴重品。
2. ビケリング博士 火星面觀測者の座右に備ふべき寫眞。
3. 地球の形を見せる月蝕の寫眞 1923年三月2日の部分蝕。

### 天文寫眞（第3輯）一枚に付き金6圓也（送料共）

1. 月面の北半 NILSON山にある 世界一の大反射鏡による月の寫眞、下弦の光に輝
2. 月面の南半 山々と海。

本會發行 新撰天文エハガキ 一組8枚 コロタイプ版 30錢 4錢 (1941年)  
プロマイド版 150錢 4錢

1. 木星面：昭和12年、會員渡邊恒夫氏が花山の30厘米の赤道儀にて觀察したもの。
2. 皆既月蝕の寫眞：昭和14年五月3日本會員清水眞一氏が撮影したもの
3. 火星のスケチ：大正15年の秋會員(故)中村要氏が觀察したもの。
4. ドナチ彗星：安政5年(1858年)の春、牧夫座に出現した大彗星。
5. 南十字座附近の寫眞：南洋に旅する人の憧れは此の“南十字”の星座である。
6. 太陽黒點の大寫し：昭和13年十一月9日、會員伊達英太郎氏が撮影したもの。
7. 冥王星：昭和5年(1930年)三月にローエル天文臺に於いて行はれた発見。
8. ギクトリヤ天文臺の183厘米反射鏡：1918年建設された天文臺の大反射鏡。

# 1941年十月の火星スケチ (3)

Sketches of the Mars, October, 1941.

(13)

伊達英太郎氏  
Dr



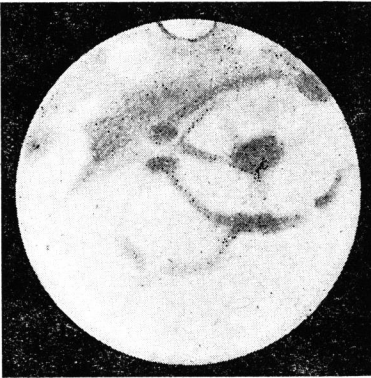
(14)

前田静雄氏  
Mr



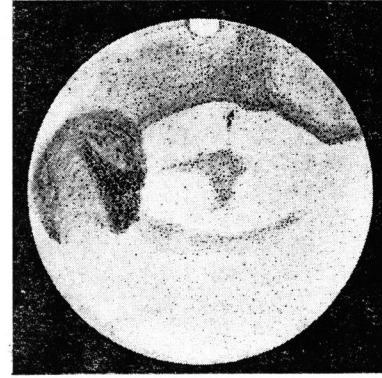
(15)

坂上務氏  
Su



(16)

頼武揚氏  
Li



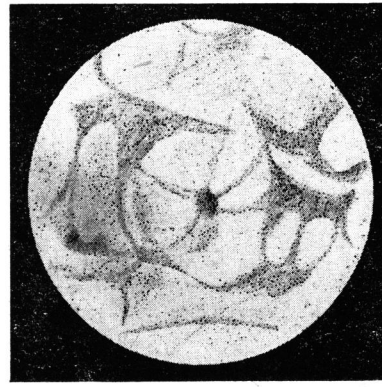
(17)

蔡章猷氏  
Ss



(18)

青木章氏  
Ai



(13) Oct. 7, 21<sup>h</sup> 20<sup>m</sup>.  $\omega=71^\circ$

(14) Oct. 10, 23<sup>h</sup> 15<sup>m</sup>.  $\omega=73^\circ$

(15) Oct. 5, 21<sup>h</sup> 40<sup>m</sup>.  $\omega=74^\circ$

(16) Oct. 8, 22<sup>h</sup> 20<sup>m</sup>.  $\omega=82^\circ$

(17) Oct. 8, 22<sup>h</sup> 20<sup>m</sup>.  $\omega=82^\circ$

(18) Oct. 3, 22<sup>h</sup> 00<sup>m</sup>.  $\omega=116^\circ$

## 東亞天文協會

—大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名—

會長	山本一清	(滋賀縣草津町大路井420; 同栗太郡上田上村桐生)
副會長	宮森作造	小槇孝二郎
理事	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
事務理事	中村覺	經理部長 宇野良雄
教官部長	高城武夫	事業部長 大口周作
報導部長	山本一清	理事(無任所) 美田爲三

本部所在地 田上天文臺 滋賀縣栗太郡上田上村桐生  
 事務局所在地 滋賀縣堅田局區内  
 經營する天文台 倉敷天文台 岡山縣倉敷市  
 大阪支部所在地 大阪市電氣科學館プラネタリウム (大阪市四ツ橋)  
 臺灣支部 臺北市公會堂内  
 青道光觀測所 廣島縣沼隈郡瀬戸村

## 東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小槇孝二郎, 幹事 宇野良雄)
2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 本田 實)
6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村木部 木邊成麿)
8. 寫真課 (課長 大津市鹿間町 堀井政三)
9. 遊星面課 (課長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎, 幹事 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

## 觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。  
 第2條, 第3條, 第6條 (略)  
 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事ガ出來ル。  
 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文協會ノ急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

御申込みは 滋賀縣堅田局區内 東亞天文協會 (電話は堅田郵便局)

(送金は安全, 確實な 振替口座 大阪56765番へ)

天界 第255號

昭和17年7月28日印刷  
昭和17年8月1日發行

〔定價金40錢〕 送料金1錢

編輯兼發行 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513

東亞天文協會 (代表者山本一清) (振替大阪56765)  
日本出版文化協會第2種會員(第220038番)發行所 同上  
印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入眞美印刷所 [電話陣3702]  
印刷者 同上

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

橋本岩太郎  
日本出版配給株式會社